

【第 140 回対策本部会議】 8 月 18 日

健康福祉部長／昨日の感染者数は過去最高の 2,988 人、今日は 2 番目に多い 2,517 人。

オミクロン株 BA.5 は感染力が強く、若い世代を中心に感染者が増加。感染者の大半は軽症か無症状で、デルタ株とは性質が違う。新型コロナウイルスの性質に合わせた対応をしなければならない。国は、ようやく全数報告の見直しの検討に入った。早期の実現を期待する。

入院者数は 329 人、病床使用率は 55.8%。うち中等症者は 115 人、中等症者用病床使用率が 19.5%。重症者は 2 人、重症者用病床使用率は 4.2%。ホテル療養者 220 人、ホテル使用率は 35.5%、自宅療養者が 12,911 人。

高齢者の割合は 1 割程度だが、重症化リスクがあるため、引き続き病床使用率を注視する。

救急医療と通常診療を守る「プロフェクト M」の対策で、2 か所目の高齢者等の宿泊療養施設を東部に設置する。21 日から稼働予定。医療的ケアは終了したが、帰宅しても介護が必要で退院できない人を受け入れる。

陽性者登録センター（仮称）の設置を準備中。薬局等の無料検査や自主検査で陽性になった人を、受診せずに陽性を確定させ、速やかに健康観察に移行させるもの。

8 月中に開設したい。対象者は、県内在住で 65 歳未満、基礎疾患がない人。無料検査や自主検査で陽性の場合、自ら Web で申請し、陽性者登録センターで確認する。センターの医師が感染を確認し、発生届を保健所に提出。自宅療養支援センターにつなぐ。医療現場の負荷の軽減と、今後のひっ迫に対応できるよう準備を進めている。

ワクチン接種調整チームリーダー／県の大規模接種会場の好生館では、毎回定員 360 人を超える人が接種を受けた。9 月も日程を追加し実施する。

実施日は、9 月 2 日（金）、3 日（土）、9 日（金）、16 日（金）の 4 日間。金曜日は 18 時～21 時、土曜日は 9 時～12 時。

対象者は 4 回目と 3 回目の接種券を持っている人で、①60 歳以上、②18 歳以上で基礎疾患等を有する人、重症化リスクが高いと医師が認める人、③18 歳以上の医療従事者、高齢者施設・障害者施設等従事者。

7 月 22 日から 4 回目の接種対象者として③も追加されている。対象者は 4 回目接種の検討をお願いする。

希望者は事前予約をお願いする。9 月の予約は、対策本部会議終了後に電話か Web で受付を開始。詳細は県のホームページで確認を。

なお、好生館での予約は受け付けていない。電話等での問い合わせは控えてほしい。

高齢者や基礎疾患のある人は、感染すると重症化リスクが高まるためワクチン接種の検討をお願いする。市町でも接種を行っている。

坂本副知事／資料を公表する際は、予約電話番号の記載をお願いする。全国の感染者数が20万人を超えている。重症化を抑える観点からワクチン接種をお願いする。

政策部長／佐賀県陽性者登録センター(仮称)では、検査キットを自ら用意するとのこと。検査キットの詳細は、今後発表するのか。

健康福祉部長／検査キットの詳細は、決定次第報告する。現在、薬局で無料検査を実施している。陽性の場合、確定のために受診の必要があるが、それが医療機関の重荷になっている。受診せずに、検査結果の確定を受けてもらう。

研究用ではない検査キット(対外診断用医薬品)で検査した人も対象。検査キットは優先して発熱外来にまわしている。今後、発熱外来がひっ迫した場合に備え、検査キットを配布し、受診しない体制を整える。

知事／本日は、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県も過去最多になるようだ。

お盆が終わり、特に九州は感染者が増加。現在の課題は、発熱外来、かかりつけ医に受診が集中していること。医療従事者の皆さんには、お盆期間中も含め奮闘していただいている。また、多忙な保健所、エッセンシャルワーカー不足と、現場の皆さんの取組みに感謝申し上げる。

現状をオミクロン株の3波と捉えている。感染者の多くが若者で、無症状か軽症。数日間で快癒する人が多い。都市部では、受診せずに治る人も多いと聞く。全数調査は、全体の傾向をつかむことに意義はあるが、信憑性のある数字なのか。コロナに合わせた国の対応を望む。

通常診療を守りたい。例えば、発熱という症状に対し、コロナ以外の理由ではないかと検査する対応が、おろそかになってはいないか。救急医療を維持したい。救急車が来ても搬送先が決まらない事態があってはならない。

現在、入院のほとんどが高齢者。新たな高齢者等宿泊療養施設も21日に稼働する。受け入れ数を増やすなどの調整を行い、病床使用率を70%未満に抑えたい。

現在、症状が出た人が、受診できる体制は維持できている。ただ、この先も感染者が増加すると、厳しくなってくる。そのため、薬局で陽性反応は出たが、無症状の人は、医療機関に行かずに、陽性者の登録ができる陽性者登録センター(仮称)を設置する。感染者の多くを占める数日で快癒する人の検査確定方法を変えることで、医療機関の外来体制を維持したい。

1週間の平均を見ると、感染者数が急激に増えている。「プロジェクトM」の稼働、医療機関や県民の皆さんの協力で、病床使用率を維持している。改めて、医療従事者、現場の皆さんに感謝する。今後とも誹謗中傷をしないようお願いします。

BA.5の感染力は強い。この状況に的確に対応し、皆さんに情報を伝える。